

人材育成委員会 男女共同参画部門企画
特別シンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達～第1回 太陽電池編」

山田明（東京工業大学）、根本香絵（国立情報学研究所）

人材育成委員会男女共同参画部門では、これまで春秋の学術講演会にて、シンポジウムあるいはインフォーマル・ミーティングを企画し、若手研究者・女性研究者のネットワーク作り等を行ってきました。ただし講演会と言う形式を取ると、講演を聞いて現状ならびに問題点等を理解・共有することはできるのですが、後に形として残る物が少ないと言う反省点が御座いました。そこで今回は、太陽電池の研究開発に関わる6名の若手女性研究者の方に、最新の研究成果と将来展望をご講演頂く、応用物理学会では初めての女性研究者のみの研究分野発表を企画致しました。6名の方は、大学ならびに企業の方にお問い合わせしました。当初は、研究機関内における苦労話を中心にお話して頂くことを考えたのですが、それよりもご自身が携わった研究内容に関する研究発表の方が、迫力並びに聴衆である若手研究者の奮起を促すことができる、との部門内での議論の末、ご講演は研究発表を中心にお問い合わせしました。これにより、活躍する女性達を全面に示すことが可能になり、若手研究者に対する良いロール・モデルが提示できること、また応用物学会ではまだまだ圧倒的に男性研究者の数が多いため、その中における女性研究者を見える化できると考えました。幸いにもこの企画は、講演会企画運営委員会の目に留まり、特別シンポジウムとして進めることができました。当日は企業からの参加者51名を含む、170名強のご参加を頂き、大変盛況なシンポジウムとなりました。

特別シンポジウムとなったことで、女性研究者をご紹介頂いた小長井応用物理学会会長から冒頭の挨拶、また特別ゲストとして日本学術振興会理事長安西祐一郎氏より、女性研究者支援、学術分野の人材育成に関する骨太のお話を頂くことができました。特に安西氏からは、明治／戦後の「追いつき追い越せ・米ソ二極」から21世紀の現代の「主体性・多極化／グローバル化」の対比、意識下の思考（subconscious thinking）、進学・大学院・ポストク問題までの広範囲かつ深い内容のお話を頂き、予定されていた1時間はあっという間に過ぎてしまいました。その後は、太陽電池のコミュニティーに100名の女性ネットワークを持ち、今回のシンポジウムの立役者である貝塚氏（資源総合システム）、そして、沈青氏（電気通信大学）、國井稔枝氏（パナソニックグループエネジー社）、神戸美花氏（旭硝子）、小倉麗子氏（ソニー）、宮内陽子氏（三菱レイヨン）にご講演を頂きました。講演会では、来場者の方にアンケートをお願いしたのですが、

- 応用物理学会での女性の数は確かに少ないので、こうした機会を生かしてネットワークが広がっていくことを期待します。
- 第一回の企画でありながら深い内容の講演ばかりでただただ驚いております。特に女性研究者の視点だけでなく、男性研究者のメッセージを含めた安西先生のお話は、女性である私にも興味深いお話でした。女性として研究者としてどのように日本、世界における問題解決に関わることができるか、改めて考えていきたいと思えます。この

ようなシンポジウムを企画していただいたことに深く感謝いたします。次回もぜひ参加していと思います。

- 安西先生のご講演は非常に興味深く、60分でも短く感じられた。質疑ができなかったことが残念です。新しい取り組みとして大変評価できると思うが、単なる太陽電池分野のシンポジウムとどう差別化するのか今後の継続発展はさらに工夫が必要だと思う。
- 女性研究者に焦点を当てた今回のシンポジウムは大変興味深く拝講させていただきました。理系、特に応用物理分野において女性研究員が少ないことは実感していることですし、少数が故に、彼女たちの意見等は軽視されがちに感じます。女性の観点からの発言は、男性には気づかない重要な部分も含んでいるので、尊重して盛んにディスカッションを深めることが大切であると感じました。今回のシンポジウムを通じ、女性研究員が第一線で活躍されていることがわかり、安心しました。
- 女性が活躍している場面が目当たりにでき、今後の研究開発の励みとなった。太陽電池の技術開発の動向の全体像が分かりやすく把握できた。
- 弊社は比較的女性比率が高いのですが、まだ男性のアシスタント的な仕事をしている人が多い。今日の活躍する女性たちの姿を会社内で報告したいと思った。
- このようなシンポジウムがあればよいと以前から思っていました。企画に感謝します。
- 活躍されている女性の話がきけて元気をもらえました。

等の貴重なご意見を頂くことができました。ご意見、ご指摘にもありますように、またタイトルも「第1回太陽電池編」とさせて頂きました通り、今後この企画はフォトニクス関連、超伝導、有機分子・バイオエレクトロニクスへとリレーして行く予定です。

最後になりますが、お忙しい中、本講演会でのご講演を快く引き受け頂きました安西先生、また6名の女性研究者の皆様に改めてお礼申し上げます。また通常の講演会がある中、シンポジウムにご出席頂き講演会を盛り上げて頂いた方々に感謝すると共に、本企画が応用物理学科会における男女共同参画の今後の展開を推し進めることができましたら幸いです。

以上

